



会報

第51号
 発行者
 全国国公立幼稚園PTA連絡協議会
 会長 猪木直樹
 事務局
 岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31
 玉島テレビ放送(株)内
 印刷
 株式会社玉島活版所

**全国国公立幼稚園
PTA連絡協議会**

「祥雲」

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会
会長 猪木直樹



二〇一五年、穏やかな年明けを迎えられ、今は子どもたちと楽しく充実した毎日をご過ごされていることと思います。

ひつじ年の本年、どんな一年になるだろうか、大きく期待が膨らむところです。羊の文字が入った「群」という漢字は羊が同じ行動をとって大勢で暮らすことからつくられたものだそうです。群れをなす羊は家族の安泰を意味するものであることからまさに我々の想いと相通ずるところがあります。そんなところを念じながらも、今春より加速されるであろう、こども子育て支援新制度に向けて、各地での対応は様々であると思います。とにかく安泰であってほしいと願うばかりです。

政治と経済の混迷により、なかなか好ましい状況ではありません。従って、我々も今、幼児教育

の環境構築に対し、何をどうすればよいのか見当がつきにくく、行動を起こしにくい状況です。しかし、我々は、積み上げてきた歴史と経験から幼児教育における最善の姿というものを頭に描くことができるので、子育ての主体者として、ビジョンを明確にもち、それぞれの地域でPTA活動に精進していきたいものです。

こんな時代だからこそ、今の子どもにとつての幸せとは何であるかを考え、実現に向けて前に進むことができる素晴らしい環境が、各単位PTAにあると信じています。

PTAとして子どもの教育環境を守るといふ一面と、保護者の見識を高めようという一面を車の両輪のごとく、進めていきたいと思っています。そんなPTA存在そのものが、これからの幼児教育に必要な不可欠なるものであることを再確認し、力を合わせ、子育てに携わっていきましょう。

本年八月には名古屋の地において、全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「愛知大会」が開

催されます。きしめんなごやの地にふさわしく、意見を交わして見識を深め、己自身の成長につなげましょう。その先には子どもの幸せの実現がありますから。

めたい雲

吉兆のごとく

祥雲であれ!!

平成26年度 優良PTA表彰 一文部科学大臣表彰

平成26年 8月10日 第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会「秋田大会」において、表彰式が行われた。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 岩手 奥州市立南都田幼稚園PTA | 大阪 堺市立白鷺幼稚園PTA |
| 福島 白河市立五箇幼稚園PTA | 岡山 奈義町立滝川つくし幼稚園PTA |
| 東京 江東区立南陽幼稚園父母と教師の会 | 岡山 高梁市立落合幼稚園PTA |
| 山梨 甲斐市立しきしま幼稚園PTA | 徳島 小松島市立江幼稚園PTA |
| 静岡 静岡市立安倍口幼稚園PTA | 香川 坂出市立坂出中央幼稚園PTA |
| 静岡 浜松市立宮口幼稚園PTA | 愛媛 八幡浜市立神山幼稚園PTA |
| 大阪 大阪市立真田山幼稚園PTA | |



特別寄稿 幼児期にこそ、親子で一緒に楽しもう



全国国公立幼稚園長会
会長 岩城 眞佐子

先日、前任園を修了して、二年生になったAちゃんのお母さんに、久しぶりにお会いしました。園長先生うちの子、一年生の時は皆勤賞で一年間がんばったのです。でも、二年生になった六月のある日のこと、朝から何となく気持ちが沈んでいる表情が見てとれたものです。様子を見守っていました。結局食事もなかなか進まず、何かあるのだからと察して『今日はお休みしようか。そのかわり、明日は学校に行こうね』と約束し、欠席することを認めたのです。私は、この子がどうするだろうと、干渉せずに見ていました。すると、本棚から幼稚園の時のアルバムや修了記念品のDVDなどを出してきて、一人で見ています。その様子を見ていて、今この子は、癒されたいんだなあと思いました。学校で、特に何かトラブルがあった訳ではなさそうでしたが、心が疲れや和みの時に触れ、ちよつとその時に戻って気持ちを回復したいのかなと感じました。でもお休みしたのはその一日だけで、翌日からは何事もなかったように登校しています」と話してくださいました。

私は、その話を聞いて、幼稚園時代のAちゃんやお母さんの様子を思い出ししました。幼稚園では、保護者の保育参加を進めています。

たので、Aちゃんのお母さんは、いろいろな活動に参加して下さったのでした。特に植物を育てる「花育」の活動のボランティアには、月に一回程度、欠かさずに参加してくださいました。ですからお母さんは、幼稚園でAちゃんと友達がかかわっている姿や遊びや生活の中で、やり遂げていく喜びを味わっている姿をつぶさに見ていてくださるような気がします。

そのようなお母さんだからこそ、二年生になつたわが子の心の葛藤に気付く「早く学校に行きなさい」と追い立てるのではなく、「今日はちよつと癒されたいのだなあ」と受け入れることができたのではないのでしょうか。またAちゃんも、お母さんが自分の気持ちを分かってくれているという安心感があるから、素直に気持ちを表していくことができるのではないのでしょうか。そのように考えると、幼稚園は、親子で一緒に活動する機会をつくり、感動したり共感したりすることができるといえることにより、思い出を共有したり、親子の絆をより深く結んでいったりする役割を担っているのだと実感します。

「親子で一緒に楽しもう」という研究テーマで活動してきます。テーマの趣旨としては次のようなことをあげています。『幼児は、本来歌ったり、踊ったり伸び伸びと表現することを樂しみます。快感情を多く経験することにより、幼児の感性も育まれていきます。しかし音楽に触れる環境が伴わないと表現活動の経験は不足しがちになります。親子と一緒に音楽に触れたり体を動かしたりすることで、楽しさや喜びを共感することができると、心をゆたかに感動体験が積み重なり、子どもの豊かな感性が育まれるのです。そこで音楽を通して、良好な親子の触れ合い方や子どもの感性を育むことをねらいとして、この研究に取り組むことにしました』

ここにあげましたように、親子で楽しさを共感することで、楽しかったことを話題にして会話がはずんだり、覚えた歌を一緒に口ずさんだり、家庭でも音楽に触れる機会をつくって楽しむ機会を増やしていただいたり、親子の関係がより良好になっていくものと考えます。今年度は、研究二年目です。で、昨年度の調査研究の成果を生かして、親子体験型研修会に参加した方や全国の幼稚園でも利用していただけるような「あつたかカード」を作成しました。このカードは八枚のカードから成っていて、表面には、じゃんけん遊びなどの「あそび歌」や誰でも知っている「手遊び」「家などが遊び方とともに載っています。裏面には、いろいろな「えかきうた」が紹介されています。各家庭で「今日はどのカードで遊ぼうかな」と親子で遊ぶきっかけにしたいと思っています。

願いを込めて作成しました。園で紹介がありましたら、ぜひ活用して、親子で一緒に歌ったり、遊んだりして、楽しさを共感していただければとうれしいです。また平成二十三・二十四年度の二年間は「遊びや生活を通して子どもの豊かな言葉をはぐくむ」というテーマで研究に取り組み、二年目の平成二十四年度には「幼児のつぶやきに耳を傾けよう」をテーマとして、このリーフレットを作成しました。これは、保護者がお子さんの言葉や会話に耳を傾け、それを書きとめることができるような構成にしたものです。このリーフレットを活用することで、保護者はお子さんの言葉からいろいろな気付きをして下さったようです。全国から寄せられた感想の中から一部を紹介します。○子どもの話していることをよく聞いてみると、いろいろなことを考えたり気付いたりしているのだと思つた。子どももつてすごいと思う。○改めて普段の会話を思い返すこともない毎日。忙しいからなんとなく会話が過ぎ去ってしまっていることに気付かされた。子どもが独立した後、しみじみ読んでみたい。○リーフレットは子育て中の良い記念になる。大きくなるまで枚数を増やし、わが子のプレゼントにしたい。○今まで自分自身にゆとりがなかったのだなと気付いた。ゆとりがたつた子どもの話を聞くようになってから、私自身にも余裕が生まれたように思う。○記録に書きとめることで、父親にも読んでもらえ、一緒に子どもの成長を確認することができ

れない」と思うと、子どもの一言一言がとても貴重に感じると。○子どもの声やつぶやきにきちんと耳を傾けられる親・大人でありたい。このように、リーフレットを活用することで、多くの保護者が子どもの話に耳を傾けて聞いてみようとする事ができたよさな言葉かもしれないと、子どもの成長の「コマ」を記録するといった意識をもたれた方もいたようです。そして子どものつぶやきや言葉を書きとめてみると、子どもが考えていること、感じていることに気付いたり、親としての自分の言動を振り返って子どもとのかかわり方を見直したりすることにつながつたようでした。幼児期は、後から振り返ると短い時間です。お子さんにとって、初めての集団生活となる幼稚園での生活は、新たな社会との出会いです。毎日親子で手をつなぎ、通園するからこそ、お子さんが経験していることや心の葛藤、成長している姿などに触れることができるのです。お子さんのつぶやきや話を耳を傾け、園で経験していることを一緒に楽しんでください。そうすることでお子さんは、豊かな体験を積み重ね、心の奥に幸福感や安心感を蓄えていきます。そして保護者の皆様にとつても、子育ての喜びをもたらししてくれるのではないのでしょうか。幼稚園時代を振り返ったときに、親子共々「楽しかったなあ」と、かけがえのない時間を過ごした思い出が刻まれますように願っております。

第五十二回全国国公立幼稚園PTA全国大会 総会ならびに研究協議会 ―秋田大会―

大会報告

大会要項

台風十一号が猛威を振るう中、美の国、詩の国、秋田県において、「秋田大会」が、文部科学省をはじめ多数のご来賓をお迎えし、盛大に開催されました。「子どもたちの幸せを約束するために」「絆」たくましく生きる秋田わか杉のふるさとから」をテーマに、平成二十六年八月九日(土)・八月十日(日)秋田市文化会館にて開催されました。

「絆」たくましく生きる秋田わか杉のふるさとから」をテーマに、平成二十六年八月九日(土)・八月十日(日)秋田市文化会館にて開催されました。

記念講演では、女優の浅利香津代さんが「ふるさとと愛と命を子どもたちに」という演題で、その土地の方言の大切さを交え、地域に根付いた育児の尊さをお話くださいました。また、3園の提案発表では、貴重なPTA活動の実践が発表され大いに学ぶことができました。さらに、秋田からのメッセージとして三味線や太鼓を使った民謡に乗せて「あきた物語」と題した創作劇や「子どもたちの幸せを約束するために」というオリジナル曲の合唱を披露してください、故郷を愛し、子どもへの思いにあふれるメッセージを受け取り参加者同感動いたしました。幼児期には「子育て」を支えるうえで「親育ち」が必須の鍵で、子どもと親の育ちを磨いていくために、さらに努力していきたいと感じさせていただきました。

約束するために「絆」たくましく生きる秋田わか杉のふるさとから

二 期日・会場
平成二十六年
八月九日(土)・八月十日(日)
秋田市文化会館

三 日程
八月九日(土)
八月十日(日)

・ 役員会
・ 理事会
・ 情報交流会
・ 開会式
・ 表彰式
・ 総会
・ 記念講演
・ 提案発表
・ 閉会式

・ 閉会式

第五十二回 秋田大会
表彰状・感謝状受賞者(敬称略)

全国国公立幼稚園PTA
連絡協議会会長表彰

前全幼P会長
京都府 万里小路 伸一郎

前全幼P副会長
東京都 今井 昇

前全幼P副会長
東京都 岩城 眞佐子

前全幼P監事
東京都 山本 三起子

前全幼P事務局長
京都府 新司 英子

全国国公立幼稚園PTA
連絡協議会会長感謝状

鳥根県幼稚園PTA連合会



平成二十六年活動方針 ならびに事業計画

一 活動方針

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、昭和三十八年結成以来、半世紀にわたり、日本の子どもの幸せと未来を保障するため、幼児教育の振興に、さまざまな形で寄与すべく活動を続けてきた。

現在の幼児を取り巻く環境は、少子化、核家族化、価値観の多様化に加え、男女共同参画による子育てに対する考え方も様々で、看過できない問題が山積している。

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、学校教育・社会教育・生涯学習の原点は幼児教育にあることを再確認するとともに、幼児期の学校教育として全国の国公立幼稚園においてなされている教育が最上のものであると確信している。私たち保護者・教師は、幼児育成の直接の当事者である責任を認識し、全国国公立幼稚園長会との連携を密にし、さらに全国すべてのPTA組織と連絡提携し、以下の項目の実現を目指した行動の推進を活動方針とする。

六月〜七月

- ・ 第六十五回全国国公立幼稚園長会総会「宮城大会」にて本会発展の協力依頼
- ・ 表敬訪問(文部科学省)(東京)
- ・ 平成二十七年全幼P全国大会「愛知大会」における提案発表について依頼
- ・ 第六十一回全国国公立幼稚園教育研究協議会「山口大会」会長出席

八月〜十二月

- ・ 会計監査、役員会、第一回理事会(秋田)
- ・ 第五十二回全国国公立幼稚園PTA全国大会「秋田大会」総会ならびに研究大会
- ・ 秋田大会決定事項の処理
- ・ 会報五十一号原稿依頼
- ・ 愛知大会開催について事前打合せ
- ・ 平成二十七年活動方針・事業計画書案と予算案作成
- ・ 第二回理事会(東京)
- ・ 理事会での検討事項の処理

一月〜三月

- ・ 会報五十一号発行
- ・ 未加入県へ加入呼びかけ
- ・ 平成二十六年活動方針・決算の中間報告書作成
- ・ 第三回理事会(東京)
- ・ 理事会での検討事項の処理

第五十二回 秋田大会

表彰状・感謝状受賞者(敬称略)

全国国公立幼稚園PTA

連絡協議会会長表彰

前全幼P会長

京都府 万里小路 伸一郎

大会宣言

全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、昭和38年に結成して以来、半世紀にわたり幼児教育の振興発展に寄与すべく、営々と活動を積み上げてきました。

人間形成の基礎を培う極めて重要な幼児期には、「子育て」を支えるうえで「親育ち」が必須の鍵であると考えます。子どもと親の育ちを磨くために私たち全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、育児は「育自」であることに誇りをもった教育団体として、すべての子どもたちに質の高い幼児教育を保障しながら成長するためにも、あらためて幼児教育の意義を再認識する必要があります。

人は誰でも幸せを求めつつ生きています。子どもの幸せを大人になって位置づけるのは間違いではありませんが、子どもには子ども時代そのものにおける充実感や達成感にこそ、幸せがあるのだと思います。つまり、子どもたちの成長と発達の支援をきちんと大人が約束しなければいけないことです。幼児教育は、子どもたちが幸せを体験・実感できる場や機会、条件をさらに整えていくことと考えます。豊かな自然と文化に溢れた日本のふるさとを愛し、ふるさとの恵みから多くの経験と多くの人の絆を大切に、「生きる力」の基礎を育む楽しさを広めていきたいものです。

生涯学習と質の高い幼児教育の推進を大きく謳いあげ、活動を展開中の秋田から一層はばたき、全国へ発信し実りある大会であるよう、「子どもたちの幸せ」を約束するため、ここに宣言します。

- 一、園・家庭・地域との連携を図り、教育環境の充実に貢献します。
- 一、PTA活動を通して、さらなる生涯学習意欲を高めます。
- 一、子どもと園の安全・防災管理を充実し、自助と共助の意識を強化します。
- 一、幼児教育諸条件整備を促進し、振興の発展に努めます。

平成26年8月10日

第52回全国国公立幼稚園PTA全国大会 秋田大会



研究協議

提案発表1

「心通わす架け橋づくり」子どもたちの笑顔のために

北海道札幌市立中央幼稚園PTA
プロジェクトチーム

佐々木 千夏

一 はじめに
札幌市は昭和四十七年に指定を受けた日本最北の政令指定都市で、年間平均五九七cmの積雪量です。同じ昭和四十七年、札幌で日本初の冬季オリンピックが開催され、これを機に観光都市としても世界的に知られる街になりました。

二 本園の概要

開園三十六年目の中央幼稚園は、平成二十二年に市立札幌大通高等学校と一緒の新園舎に移転しました。
ふるさと札幌に立脚して、学力や豊かな心、健やかな身体など「生きる力」を育み「自立した札幌人」の育成を目指し、幼小中高すべての学校が共通に取り組んでいます。

四 主な活動紹介

- (1)役員会 PTA全体をサポート
- (2)学級代表委員会 茶話会、学級レクなど企画運営
- (3)専門部委員会

三 PTAの活動方針と運営

活動方針は「幼稚園教育の理解

と推進、園の教育環境の整備と充実に協力する。会員の研修と会員相互の親睦を図ることを目的とし、子どもたちを共に育てていくという共通理解を持ち活動する。会員が活動に関わる中で交流し親睦を深め、支援し合いながら活動を進める」です。

活動テーマは『心通わす架け橋づくり』子どもたちの笑顔のために』です。これには「これまでのPTA活動の成果を生かし、保護者自身が楽しみながら活動し、親睦を深められるようにする」という継続的に展開していく活動に加え、「子どもたちを共に育てていく」という共通理解のもと、親子・保護者同士・他の子どもとのつながり、そして教師が関係性を強め、保護者・教師が子どもたちと共に成長できる活動とし、子育ての喜びを共有したい」という思いが込められています。活動方針に活動テーマを設けることで、これがスローガンとなり活動の軸となっています。

- ①文化部 講座、本の紹介、PTA文庫の管理

提案発表Ⅱ

② 行事部 親子行事、美化活動
③ 広報部 広報紙「つくしんぼ」
発行

「我が園のPTA活動」

岩手県奥州市立羽田幼稚園

平成二十五年度PTA会長
佐藤 勉

一 はじめに

平成二十五年度の活動を振り返ると、会員の発想が生かされた様々な活動が行われました。すべての活動が、活動方針にある『親睦』『つながり』『子どもたちの成長』を大切にしていることが分かります。同じ目的を持つことができれば、参加の形は変化して、活動は実を結ぶと実感できました。

本園がある奥州市は岩手県南に位置し、五市町村の合併により平成十八年二月に誕生しました。豊かな自然に恵まれ、様々な特産品があります。
三歳児十一名、四歳児十一名、五歳児九名の計三十一名が在籍しています。羽田幼稚園は羽田地区唯一の幼稚園であり、保育園もありません。

今後、活動テーマを持つこと、そして、会員の状況に合わせた共感できる活動方針と活動テーマの設定を行い、共有に向けた取り組みも継続する必要があると考えます。

羽田地区には、幼稚園から約1km離れたところに羽田地区唯一の羽田小学校があり、羽田幼稚園に通うほとんどの子が羽田小学校に進学します。

六 今後の展望

本園では就労支援の目的で預かり保育が本格実施になりました。母親以外の視点が加わることで視野が広がり、活動の充実が期待できます。「子どもたちの笑顔のために」「心通いあう仲間」として、「つながり」「共に成長し」「育んでいける」という自信を持って、学び培ってきたことを架け橋として、笑顔を咲かせていくことを支えたいと思います。

○組織
会長一名、副会長三名(園長も含む)、クラス役員七名、監査二名、事務局一名(幼稚園の園長補佐)

二 PTA組織と活動内容

○内容
△会 長▽

・総会の開催、進行

・役員会の開催、進行
・PTA奉仕作業開催

△副 会 長▽

・パーサー及び研修会、環境整備活動の企画と運営
・二名の副会長がそれぞれに分かれてリーダーになる)

△クラス役員▽

・研修会や行事協力のクラスのとまりまとめ
・スナップ写真振り分け協力の呼びかけ
・茶話会への参加の誘い

△全役員に係わるもの▽

・運動会、夕涼み会、発表会への協力
・PTA研修会への参加
・ベルマークの集計
△全会員に係わるもの▽

・PTA活動(奉仕活動、夕涼み会の準備)への参加、協力
・パーサーへの出品、購入
・ベルマーク収集
・スナップ写真振り分け
●茶話会

●羽田幼稚園子ども鹿踊り

三 おわりに

羽田幼稚園は園児の数が多くないこともあり、子どもを通う三年間に、ほとんどの家庭が何かしらPTA役員を経験します。子どもたちに楽しい思い出をたくさん残してあげるためにも、PTA活

提案発表Ⅲ

「親子の絆を深める活動」

富山県富山市立真羽幼稚園
PTAありの分会会長
谷岡 裕美

一 はじめに

富山県は北陸に位置し、標高三〇〇〇m級の立山連峰から水深一、〇〇〇mの富山湾まで、高低差が四、〇〇〇mもある地形が特徴です。
真羽幼稚園は昭和三十二年「私立真羽幼稚園」として創立し、昭和四十年に富山市に移管されました。本園は二年保育で、昨年度は園児数二十六名と大変小規模な幼稚園ですが、保護者と園が協力して幼児の教育に取り組んでいます。

子どもたちが幼稚園に通う間の短いPTA活動かもしれませんが、親にとっても貴重な財産になると実感しました。

教育目標は「心身ともに健康な子の育成」と掲げ、「明るく元気な子供」「よく考えて最後までやり抜く子供」「思いやりのある子供」とし、知・徳・体と調和のとれた子供の育成を目指しています。

二 PTAの組織と活動内容

○役員
会長・副会長・会計・監査・書記
ありのみ編集委員・学級代表

①園行事の運営補助や環境整備



②機関紙「ありのみ」の編集・発行

③PTA事業の推進
・総会開催
・わんぱくプロジェクト(H25)
・お楽しみ会、園祭、餅つき会等

☆「全国大会への道」の編集・発行(H25)

三 親子の絆を深める活動について

- (1)お楽しみ会
 - (2)保育参加
 - (3)野菜づくり
 - (4)笑顔いっぱい・わんぱくプロジェクト
- 富山市公立幼稚園PTA連絡協議会最大のイベントです。各園との交流を目的に、年に一度、日曜日に開催します。
- (5)もちつき会
 - (6)勤労奉仕

四 実践活動を通して

年間を通して我が子と触れ合える活動に重きを置いた結果、幼稚園という小さな社会を子供なりに意識して気持ちを切り替えている姿や、友達に思いやりをもって関わっている姿等が見られたことに驚きと感動を覚えました。

五 今後の課題

近年、核家族、両親が共働きという家庭が増え、呉羽幼稚園でも園児数が減少傾向にあり、保護者全員が役員にならざるを得ません。全体でうまくコミュニケーションをとりながら、無理のないPTA活動ができるよう工夫していく必要があると感じています。

六 おわりに

先生・保護者が心を通わせて協力することにより、子供たちが笑顔で幼稚園生活を送り、保護者は孤立することなく子育てが出来ていると思います。保護者同士の信頼関係が生まれ、PTA行事を以前にも増してスムーズに行うことが出来ました。そして、子供たちには地域に伝わる伝統行事・お祭り・地域の方々との触れ合いを通して、「くればつ子」らしく元気に成長して欲しいと願っています。

指導助言 I

全国国公立幼稚園長会

会長 岩城 眞佐子氏



北海道札幌市立中央幼稚園は、PTA活動の方針を「心通わす架け橋作り」と明確にスローガンとして、保護者の皆様が楽しみながら、そして親睦を深めながらされてきたというところが、大変注目すべきところだと思います。子どもたちの学びに生かされているところも注目するところだと思います。子どもたちの教育の一環としても大きな意味をもっていることを教えてくれる実践だったと思います。保護者の皆様が、「大変だったけれどPTA活動は楽しかった！素敵なお仲間巡りに出会った」という感想が寄せられたのは、大きな成果であったと思います。預かり保育が本格実施されたという状況ですが、送迎の時間がずれてくるということがある中で、自然発生的にどの学級も、PTA学級だよりというのを発信されたという、保護者同士のつながりを大切にしていくという取り組みが、本当に貴重であると思います。

者が一緒に地域の行事や活動に参加していくことで、子どもたちは地域への愛着をもつようになります。大きくなって地域文化の伝統や文化を誇りと思っていけるようになるのではないのでしょうか。地域に根ざした幼稚園だからこそ、幼稚園の活動を通して、保護者も地域に深くとけ込み、地域のコミュニケーションの中でも活動していただけた人材になるのではないかと期待されることです。幼児期から地域の方々と接し、地域の方々に見守られて成長していくことは、大きな安心感につながります。PTA活動が保護者の仲間づくりにも成果をあげたということが伝わってまいりました。

富山県呉羽幼稚園は、三園の中では一番小さな規模でございますが、梨の名産地という地域の特色を活かされて、春は梨の花見、秋は梨もぎ体験ができるという羨ましい環境をもっておられると思います。年間を通して、保護者が園の活動に参加できる機会として、特技を活かして子どもたちとのふれ合い活動などをされてきたということだと思います。我が子と幼稚園で触れ合える活動を通して、「幼稚園という小さな社会の中で、子どもたち一人一人が気持ちを切り替えたり、友達に思いやりをもってかわつたりする姿を見て、驚きと感動を覚えました。」という感想があったりということですが、お父さん方がお子さんと触れ合う機会が以外に少ないんじゃないかというのに気付かれたりしたことは、大きな意義があったと感じます。またPTA活動を通して、子育ての喜びを感じていただけたということ、大変大きな成果であったと思います。どの園も提案して下さったなかに、共通するキーワードがあったように思います。そういったことの中から、たくさん学ばせていただきました。ここにご参会の皆様も各園の実践に活かしていただきたいと思っています。本当にありがとうございます。

指導助言 II

文部科学省 生涯学習政策局社会教育課
地域・学校支援推進室連携支援係長

熊切 隆氏

札幌中央幼稚園は、「心通わす架け橋づくり」ということで、キーワードとして、ひとつは「主体的なスタイル」というのが自分としては心に残りました。二つ目は地域性です。正に札幌という所では、雪というところが出てきたと思います。雪を使って雪に負けるというわけではなく、雪を財源にして

子どもたちのレクリエーションであつたり、保護者同士の共同で生み出すための仕掛けになつていて地域性というのをうまく使っているのではないかと思います。ピンチはチャンスと簡単には言えないと思います。今、皆様方がおかれているPTAの活動の中で、何が課題なのか、その地域性もちょっと意識していただけると良いのではないかと感じました。

奥州市立羽田幼稚園は、地域に根ざした幼稚園というものがすごく残りました。フリーズとして、よく地域連携、自分の肩書としてよく出てくるのですが、地域と連携することは大切です。大切ということは大人がみんな地域の伝統を伝えていくという、なくさないようにしよう、地域のニーズは必ずあると思います。正に地域に根ざすという大切さを改めて感じました。人数が少ない、園児が少ない、これは日本中の課題だと思ひます。地域のために、子どもたちのために、次の地域を担う子どもたちのために、力を借りるといふことは、非常に素晴らしい活動だと感じました。

富山県呉羽幼稚園は、「ありのみ会」という愛着のあるネーミングを付けることが、すごく大きくと考えます。組織でなんとなくつなげていくのではなく、「この土

地はこれが大事なんだよ、こういう物が取れるんだよ、こういう物が有名なんだよ」と本当に愛着を感じさせる名前やネーミングを付けてやられていくということが、ひとつ印象に残りました。また、「企画運営に時間をかけるのはもったいない、実行する方に力を入れていこう」と共通理解から共通行動へ移す、正に行動に力を入れるという所は、非常に印象に残りました。

三園の発表を聞かせていただき、教育には変わっていいもの、変わってはいけないもの、流行と不易という言葉があると思ひます。変わらないものは変わらないもの、ただこれからは変えていくものが結構多くなつていきます。子どもたちは、そういった社会でこれからも生活していきます。是非、大人が積極的に、「前向きにチェンジすることが怖くないんだよ！大丈夫だよ！」ということを発信してほしいと思ひます。それによつて、本テーマであります子どもたちの幸せを約束するためには、大人たちの笑顔がなければなりません。つなげていかないと思ひますので、皆さんには笑顔を大事に、やっていただけたらと思ひます。

記念講演

「ふるむじの愛と命を」

子どもたちに

講師 浅利 香津代氏



たのですが、来年五月には第五回目の会で五周年記念、そして、私の「役者生活五十周年」の会をやります。ま、そんな訳で秋田と東京を往復する生活です。秋田に帰る度、私の心の中で仮眠していった「秋田」という二文字が動き始めるのです。秋田は室の山です！この土地を信じ、駅前で秋田弁で多くの方々と生き抜き、命のバトンを母に渡し、そして私は母から受け取ったのですが、私にはバトンを渡す子どもは居ません。次から次へとテレビ、舞台が続き、台詞を覚え稽古、そして本番をやり、の必死の日々でした。そんな中で、秋田に帰ってきた時、秋田市の企画課から小学六年生を対象に「平和の朗読会」をやつて欲しいとの依頼。「平和をきちんと捉え、社会を生きる自分を気づかせたい！」という主旨でした。秋田大学名誉教授・佐々木久春先生の「はまなすはみた」という、あの戦争の最後の秋田空襲を描いた作品を朗読。そのあとの講和で「天災にも人災にも合わなかつたら、それで平和？それだけでいいの？それだけじゃないよ、もうひとつ大事な事があるのよ。自分の命が生き生きしていきや、そして幸せでいきやあ！キラキラ輝いていきや！その自分が平和に参加できる平和よ！」と。この六年生と

こんにちは！浅利香津代と申します！知っている人は知っています！知つていない方もいらつしやうと思ひます。これを秋田弁で挨拶させて頂くと「おべでる人もいるべども、おべでねえ人もいるべがら自己紹介するすてあ！」となります。分かつたかどうかですが、(笑)

私は秋田の駅前生まれ育ちました。母が産後三年で亡くなり、父は婿だったので実家に戻つたところで、母方の祖父母に育てられ

平成二十六年 表敬訪問報告

の「平和の朗読会」は、今、私の「命の泉」になっているのです。一年間十校開いて下さり、五年目になりましたあ！秋田市市の学校ですが、全県いえ、全国に伺えたら良いなあと願っております！

先日読んだ良い作品があり、読ませて頂きます。「縁を生かす」という題です。人は誰でも無数の縁に生まれ、人はその人生を開花させていきます。担任の先生との縁に無限の光を見出し、心のよりどころとして、それからの人生を生きた少年のエッセイです。もうひとつは、自分の夢にいささかの迷いもない大リーグのイチロー選手の小児時代の作文です。《朗読に入る。》松下幸之助さんがおっしゃったそうです。「夢を見ることは、重荷を背負うことだ。イチローさんは小学生にしてすでに体得した感があり、そして最後に世話になった人に対して報いるという報恩の心を持っている。夢を持ち、その夢を実現すべく燃えることが出来るのは、すべての生き物のなかで人間だけである。天から授かったこの能力をふるに発揮する人生を送りたいものである。」以上です。これで今日の私のつたない話を終わりたいと思います。本日の試練を頂き、感謝申し上げます！ありがとうございます。

平成二十六年七月十五日全幼P

猪木会長、岩城全国国公立幼稚園

園長会会長、同事務局局長、全幼P

副会長三名が文部科学省へ表敬訪

問を行った。そして、国公立幼

園の実情をお話しさせていただ

たり、諸問題につきましまして願

をしたりしました。

(ここに要望書の全文を載せる)

要望事項

一 国策として、幼稚園教育振興・充実を図っていただきたい。

公立幼稚園未設置市町村が、全国で八九九(五二・六%)あります。これら未設置市町村を解消し、幼稚園教育を希望するすべての幼児が完全に就園できるよう、次の項目を強く要望します。

- (1) 市区町村に対する公立幼稚園設置義務化のための法整備
- (2) 三年保育の実施拡大
- (3) 財政難を理由にした幼稚

園の統廃合抑制・民営化の阻止

(4) 幼稚園における子育て支援及び預かり保育のための財政措置

二 幼稚園教育環境の整備・拡充を図っていただきたい。

公立幼稚園は小・中・高等学校と教育環境において様々な格差があります。幼稚園教育充実のため、人的、物的、及び、制度的環境の整備拡充がなされるよう、次の項目について特段のご高配をお願いします。

- (1) 専任園長、副園長・教頭 養護教諭、事務職員の配置
- (2) 発達の特性に応じたきめ細やかな指導をするための正規教員数の確保
- (3) 都道府県及び市区町村教育委員会に於ける幼児教育専門の指導主事の配置
- (4) 安全管理・危機管理の人員・施設・設備等の改善
- (5) 幼稚園施設の耐震化推進

三 国公立幼稚園教員の職責にふさわしい処遇を図っていただきたい。

人間形成の基礎を培う重要な幼児期の教育にかかわる幼稚園教員の待遇改善と、資質向上を目指し、次の項目実現のための制度を確立してください。

- (1) 幼稚園教員に対する教育職俸給表の適用
- (2) ライフステージに応じた研修経費の確保
- (3) 正規雇用の促進

平成二十六年 理事会報告

第一回

期日 八月九日(土)

場所 秋田県潟上市 昭和公民館

豊かな自然と人の温かさを兼ね備えた秋田の地において、各県の代表による熱気あふれる理事会が行われた。

猪木会長の挨拶の後、大関秋田大会運営委員長から大会の概要説明、岩城顧問の挨拶の後、平成二十五年年度会務・決算報告、本年度活動方針、事業計画・予算報告、平成二十六年年度の要望、規約改正、文部科学大臣表彰、全幼P

会長表彰・会長感謝状贈呈について報告をした。平成二十七年愛

知大会伝保運営委員長より開催地の取り組みの説明があった。また平成二十八年度熊本大会長瀬運営委員長の挨拶があった。大会開催は平成三十三年度、研究協議提案案は平成三十年年度まで決定済の報告があった。

役員選考については、各プロックから選考委員を選出し、委員により役員が選出され、理事会で報告された。

第二回 期日 十一月十四日(金)

場所 国立オリンピック記念 青少年総合センター

猪木新会長と岩城顧問の挨拶の後、秋田大会大関運営委員長からのお礼の挨拶があり、大会が成功裏に終わったことを確認した。

続いて、平成二十七年年度の活動方針・事業計画案・愛知大会について・要望内容等を協議した。また、今後の大会開催県、研究協議提案県の確認をした。その後、文部科学省初等中等教育局幼児教育課 相原専門官の話を拝聴した。

第三回は平成二十七年三月五日(木)東京オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催予定。

おめでとう

「親・子 共に育ち合う PTA活動」をめざして
 奥州市立南都田幼稚園
 園長 高橋 尚子

保護者は、本園に対する教育活動や環境の整備充実に積極的に自主的に計画以外の活動を提案し、それへの参加率が高いなど大変協力的です。

【PTA活動の紹介】

この度、平成二十六年年度優良PTA文部科学大臣表彰をいただきました。この栄誉は、これまでPTA活動を支えていただきました保護者の皆様や教職員、そして地域の皆様の温かいご理解とご支援の賜物と心より感謝いたしております。

本園は、三歳児十八名、四歳児十三名、五歳児二十六名、計五十七名の園児が在籍し、『すなおで』『元気いっぱい』『なつたっこ』の育成をめざし地域とのつながりを大切にPTA活動を展開しています。

環境としては、奥羽山脈、焼石岳を望む自然に恵まれた農村地帯で地域には、新興住宅が点在しています。小学校と中学校が隣接しており、「南都田学園」と称して地域にご理解とご支援をいただきながら様々な交流活動を継続的に行っています。

〈親子で遊ぼう〉

本園では、PTA会長を含む役員を中心に教養部・環境部・広報部の三部を構成し、主体的で楽しいPTA活動をめざしながら取り組んでいます。その中の教養部の活動を中心に紹介させていただきます。

PTAと園と地域の共催で行われているふれあい活動のひとつで今年度は、外部講師を招いて「親子で体操」を楽しみました。日頃なかなか時間がつかれないお父さん方にとっては、我が子の実態や成長を垣間見る絶好の機会となりました。子どもたちからも「また遊びたい」と感想の声がかれ、触れ合うことの楽しさが実感できたとよかったです。



「お母さんの下くぐるからね。」

また、冬には希望者を募つての「親子で雪遊び」や「餅つき」などの企画があり、兄弟やお父さん方の参加も多く雪国ならではの活動になっていきます。また、地域との共催で伝承踊りの鑑賞をする機会も設けています。

環境部（花壇整備・園内清掃）、広報部（広報作成）はPTA全会員に呼びかけて作業や全員寄稿の協力をいただきながら活動を進めています。



「羊のお顔見えてきましたか？お手で土をよけてね。そうそう上手ですよ。」

【保育ボランティア】

畑での栽培や収穫等のお手伝い、また絵本の修理作業やスキー場のそり遊び保育補助などの協力をいただいています。畑で芋苗の植え方や収穫の仕方を教えていただきながら「お母さん先生」に親しみを寄せたり、園児の名前や様子を知らることができたりすることで保護者の方には「貴重な機会でした」という感想をいただきました。



「ぐっとねじるようにしてだよ。」
「そうだ、上手だ。」

【保育参加】

運動会では、役員全員に運営に携わって協力をいただいています。事前に打ち合わせ会を設け、係を決めて仕事を分担します。予行練習・本番と両日にわたって参加していただき、スムーズに会が進められるようにしています。生活発表会の行事では、PTAも数日練習会を設けて発表するな

ど、会を盛り上げます。

クリスマスやお正月の行事にちなんで親子で「クリスマスのグッズ作り」や「しめ縄飾り作り」に取り組みます。しめ縄飾りは、地域の老人クラブの方々に講師に招いて親子で教わりながら製作します。園児とお父さん、お母さんが一生懸命に取り組み、親子で完成を喜んだり、出来上がりに感動したりする姿はとても微笑ましい場面です。

また、餅つき会の際には、遊びのコーナーを担当し、企画・進行役を務めて子どもたちと楽しい時間を共有します。

【おわりに】

PTA役員や保育ボランティアを引き受けた保護者から、「初めは億劫でしたが、参観日では見られない子ども様子が見られたり、お母さんたちと仲良くなれたりして役員を引き受けてよかったです」という声を聞きます。

子どもたちの成長を確認できる、感動の場面に遭遇するということがでなく、保護者同士を繋ぐという意味でもPTA活動は重要であることが確認できました。これからも楽しいPTA活動をモットーに、幼稚園と保護者の架け橋となるよう努めていきたいと思ひます。

「育てよう」とから
全員参加型のPTA活動を
目指そう



この度、全国国公立幼稚園PTA連絡協議会に於いて、平成二十六年度優良PTA文部科学大臣表彰という栄を賜りましたこと、大変に嬉しくありがとうございます。多くの方々の宮口っ子への温かい想いの積み重ねが受賞に繋がったのだと思います。歴代のPTA役員・会員のご努力、地域の皆様のご理解とご協力の賜物と感謝いたしております。

本園は、静岡県西部地区にあり、ます浜松市のほぼ中央に位置し、現在三学年一四名の園児が在籍しています。市内には公立幼稚園が六三園あり、豊かな自然や地域の伝統文化を保育に取り込んだり、戸外で元気よく体を動かしたりして、幼稚園大好き友達大好きな、たくましく心豊かな子の育成を目指しています。宮口幼稚園は、祖父母の同居率が五〇%以上と高く、子どもたちとお年寄りとのかわりや地域住民とのかわりも深く、常に地域の人に見守られています。

PTA活動に於きましては、会

員全員が身近にPTA活動を感じられる様、平成二十四年度より大幅に組織変更を行い、全員参加型のPTA活動に取り組んでいます。保護者は行事の準備や当日の運営にかかわるようになり、豊富なアイデアで充実した行事ができるようになりました。「園に足る運ぶきつけになり子どもたちの様子を見ることができて嬉しい。」との感想もいただいています。また、副会長を二名から四名に増員したり、地区委員が各行事のリーダーを担当したり、行事の準備や当日の運営にかかわったりしたことで、役員負担軽減が図られました。行事の準備や当日の運営にかかわったことで、会員一人一人のPTA活動への意識に変化が見られるようになってきました。更に次年度への仕事内容の伝達も円滑になってきたことが大きな成果です。

年間の主なPTA活動として次のものがあります。

【子どもバザー】

家で眠っているおもちゃを持ち寄り、買い物体験をする行事です。自分で物を選ぶ喜び自分のお財布から本物のお金を支払うドキドキ感、お釣りやレシートをもらってちよっぴり大人気分を味わいどの子どもとても嬉しそうにしていま

す。自分たちのお店屋さんにも繋がりました。



【幼稚園祭り ワッショイ☆みんな集まれ！宮口っ子まつり】

PTA行事の中で最も盛大な行事です。今年は今までなかった名称を全会員の中から募集して決めました。取り組みは約二か月前から地区委員全員で模擬店の準備を分担し、景品や看板を手作りしま



す。屋台の引き回しや盆踊りでは、地域の支援ボランティアがお囃子に合わせて太鼓をたたいてお祭りの雰囲気盛り上げてくれます。お母さんだけでなく、お父さんも屋台の準備をして協力してくれました。未就園児も招待して賑やかに過ごします。年長組のお店で買い物をしたり、先生たちのお芋屋さんでお芋を食べたりしてお祭りを満喫しています。

【幼児交通安全教室】

子どもたちが安全に幼稚園に通えるよう、PTA組織の中に幼児交通安全クラブが位置付けられています。副会長が安全クラブのリーダーを兼ねています。年に四回地域の警察から交通安全指導員さんを招いて、横断歩道の歩き方や信号機の見方などの指導を受け実際に道路で歩行訓練を実施して



います。また、保護者向けに旗振り指導、小学校に上がる準備として傘さし指導や通学班に交って登校訓練なども行っています。

【文集製作】

保護者がページの作成・印刷・製本を行い、毎年とても温かみの溢れた冊子が出来上がります。園児一人一人のページには、保護者が一年間の子ども成長を書いたり、子どもが絵を描くスペースがあったりと、親子で会話を楽しみなながら一年間を振り返ることができます。親子共々幼稚園生活を送った大切な宝物です。子どもが大人になるまで大事にとっておいてほしいなど願っています。

◎おわりに

自己肯定観が低くなってきている現代の子どもたち。幼児期に保護者や教師、身近な地域の人など周りにいる大人の愛情の中で、伸び伸びと生活して、心もからだもたくましく成長してほしいことを願っています。これからも家庭・地域・幼稚園が協力し合って、未来を担っていく子どもたちの成長を手助けできるよう頑張ります。

「元気いっぱい、笑顔いっぱい、みんなが集うPTA活動」

立江幼稚園
PTA会長 小谷 大典

にも当てはまると痛感し、親も子も共に育ち合うPTAでありたいし、幼稚園のサポートができたらと願いつつ、本年度のPTA活動を進めています。活動の中から少し紹介させていただきます。

も御輿を二台作り、保護者の方が軽トラックで目的地の秋葉神社まで運んでくれました。その後、親子で三十分かけて歩き、やつと山の上にある秋葉神社に着きました。地域の人が太鼓を叩かしてもらったり、だんじりを引っ張ったり、御輿を担ぎ、「無病息災」を願って笹で天狗をしばくなど、保育所児と一緒に頑張りました。そして、お土産をもらって来た道へ帰ります。園児達は疲れながらも歌いながら歩き、保護者達は、お喋りに花が咲き、心地よい風に吹かれ、子ども達との楽しい時間が過ぎました。園児達はお家の人と一緒に参加できて楽しい一日でした。



【立江老人会と一緒に
—おもちつき—】
立江地区には二ヶ所の老人会があります。十一月になると恒例の「老人会と一緒におもちつき」があります。老人会のおじいさん・おばあさんが十五人来て、丸太を割った薪を燃やし、餅米を蒸してお餅つきの始まりです。お父さんとおじいさんが杵で餅をつき、お母さんやおばあさんがあんを丸め、お餅を丸めてパックに詰めました。もちろん園児も、一緒に来ている兄弟姉妹もお餅をついて、丸めて食べました。園児達が家庭の畑で育てたサツマイモや、春に収穫して冷凍保存しておいたヨモギも入れて、とてもおいしく頂きました。その後、園児からの肩たたきと小物入れのプレゼントにおじいさん達はとても喜び、何度もお礼を言ってくれました。

この度、平成二十六年度『優良PTA文部科学大臣賞』をいただき、ありがとうございます。この榮譽は、今まで本園のPTAを築いてこられた先人の方々はもとより、これまでPTA活動を支えていただきました。保護者の皆様や教職員、そして地域の方々のかいご支援・ご協力の賜物と、心より感謝いたしております。

【立江小学校幼稚園合同夕涼み会
—北海道勇足小学校を招いて—】
七月十八日（金）当日までに、幼小合同で役員会を開き、話し合子つかみの模擬店を出店しました。交代に店番をしたり、親子で買い物をしたり、和太鼓演奏・阿波踊り・吹き筒花火を見たりなどしました。準備から片づけまでみんなで協力をしました。お母さんやお父さんが店番をしているところでも嬉しそうでした。

【木のバスが当たったよ
—みんなでペンキ塗り—】
「木と森のイベント」の抽選会で徳島県下で二台の「木のバス」が当たりました。園庭には、朽ちて使えなくなったログタワーがあり、撤去することに決まっていたので、その場所へ設置することにしました。

さり、十一月六日（木）に切ることなりになりました。チェーンソーで切っている音にびっくりした子ども達。おじいちゃんやおとうさん、園長先生も一緒に加わって、切っているところや切った丸太を運んだり、割ったりしている様子を近くで見ている園児達は、初めての経験に興味津々。割った木は、十一月八日（土）のもちつききの薪に使うことにしました。そして、十一月七日（金）に保護者や教師が「木のバス」にペンキを塗りました。北風が強く、寒い一日でしたが、園児達の見ている前で頑張りました。できるだけ木の温もりが園児達に伝わるように、木目に分かる色で塗り、バスの中には園児達の作品が飾れるよう想像しながら仕上げました。その後日、タイヤの色を濃くしたり、塗りむらが見つかる塗り直したりなどしました。素敵な仕上がりに、みんな大満足でした。

【立江保育所・幼稚園合同
—天狗しばき—】
十月十八日（土）園児達が子ども

立江幼稚園は、四国霊場の十九番札所『立江寺』の門前町として開けた町で、商店や田園があります。立江川にはしらすぎ橋が架かり、春秋には歩き遍路が幼稚園の前を行き交います。四季折々の自然を身近に感じる落ち着いた所で、二年保育十八名の園児達の元気な歓声や笑い声の絶えない環境の中で、保護者全員が役員のPTA活動が行われています。

また、幼稚園では、地域の実態を活かした交流活動を積極的に取り入れ、豊かな人間関係づくりを図ることや、命の大切さや思いやりの心を育てることに取り組んでいます。その取り組みは、保護者



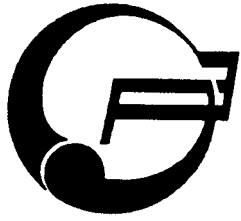
まず、丸太でできたログタワーの撤去をどうするか、みんなで話し合いました。業者に依頼するお金はないし・・・すると、保護者（おじいちゃん）がチェーンソーで切ってみると言ってくだ

以上のような活動を通して、保護者や地域の方々の優しさや温もりに触れると共に、信頼感と一緒に過ごす楽しさ、心地よさを実感しています。これからも、保護者、教師と共に、元気いっぱい、笑顔いっぱい、みんなが集う幼稚園で、楽しくPTA活動を続けていきたいと思います。



第53回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

愛知大会ご案内



全国国公立幼稚園・こども園 PTA連絡協議会章



愛知県 県章

このマークは、「あいち」の文字を図案化し、太平洋に面した県の海外発展性を印象づけ、希望に満ちた旭日波頭(きよくじつはとう)を表しています。

大会主題 愛//未来を創る子どもたちへ NAGOYAKAに、親子をつなぐ愛と知恵

期日 平成27年8月7日(金)・8日(土)
場所 名古屋国際会議場 ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋

第五十三回全国国公立幼稚園・こども園 PTA全国大会愛知大会

愛知大会運営委員長 伝保 裕規

第五十三回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 愛知大会運営委員長の、伝保裕規と申します。会員の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。

中では規約改正について前向きな意見が多く出され、新制度の施行を受けて全幼Pも新たな局面を迎えていることを実感いたしました。

私はPTA会長として幼稚園とのかかわりが深まるにしたがい、保護者が子どもたちのために学び合い、子どもたちの将来について語り合い、互いの絆を深めていくことの大切さを強く感じています。愛知大会では、これまでの開催が積み重ねてきたPTAの力を引き継ぎ、国公立幼稚園・こども園の良さや役割についても再確認しながら、新しい全国大会の始まりの大会にしていきたいと考えています。

平成二十六年四月から、「子ども子育て新制度」が施行され、いよいよ幼児教育に新しい風が吹き込まれてきました。私はこの新制度が、常に子どもたちのために、そして子育て奮闘中の保護者のために充実した制度として歩み続けることを心から願っています。さて、私は八月に来年度の愛知大会開催に向け、実行委員のメンバーと共に、秋田にお邪魔しました。秋田の澄んだ空気と、大関運営委員長始め秋田大会に携わる皆様

の熱い思いに迎えられ、秋田の皆様が心を一つにして取り組まれている姿を拝見し、自分たちの愛知大会もいよいよ始まるんだ！と気が引き締まる思いがしました。また、初めて参加した役員会の

だ叡智、技術、創造力を結集して子育てに生かし、愛する子どもたちが輝く笑顔で大きく、そして豊かに未来へ羽ばたいていくために、私たち親はどう子どもたちと向き合い、愛と知恵をつなげていくとよいかを、全国の皆様と共に語り合いたいと思います。愛知大会は、平成二十七年八月七日(金) 八日(土)に名古屋市中で開催いたします。名古屋の夏は暑さは有名ですが、それ以上に私たち実行委員や会員の思いは熱く燃えています。ぜひ多くの方にご参加いただき、愛知大会を盛り上げていただきたくお願い申し上げます。ご案内とさせていただきます。

皆様が心一つにして取り組まれている姿を拝見し、自分たちの愛知大会もいよいよ始まるんだ！と気が引き締まる思いがしました。また、初めて参加した役員会の

さて、愛知県といえば、「ものづくりの街」として有名ですが、ただ多くを生産するだけでなく、そこに様々な知恵と創造力を生かし、将来への夢につながるものづくりであることが愛知の特徴だと考えます。その先人から受け継い



平成二十六年 顧問・役員のご紹介

顧問

- 高橋 勝明 (元全幼P会長)
万里小路伸一郎 (前全幼P会長)
上枝 秀則 (前全幼P副会長)
今井 昇 (前全幼P副会長)
板東 優子 (元全幼P事務局長)
須藤 幸子 (元全幼P事務局長)
楠元 祐子 (元全幼P事務局長)
作道 昌宏 (元全幼P事務局長)
中村 初美 (元全幼P事務局長)
新司 英子 (前全幼P事務局長)
磯部 頼子 (元全国国公立幼稚園長会会長)
酒井 幸子 (元全国国公立幼稚園長会会長)
齊藤美代子 (元全国国公立幼稚園長会会長)
岡上 直子 (元全国国公立幼稚園長会会長)
池田多津美 (元全国国公立幼稚園長会会長)
荒木 尚子 (前全国国公立幼稚園長会会長)
岩城眞佐子 (全国国公立幼稚園長会会長)
大木 英雄 (元全国国公立幼稚園長会事務局長)
深町 芳弘 (前全国国公立幼稚園長会事務局長)
楚阪 博 (全国国公立幼稚園長会事務局長)

役員

- 会長 猪木 直樹 (岡山)
副会長 大関 敏寛 (秋田)
中川 博喜 (東京)
太田 禎彦 (静岡)
矢原 健聖 (大阪)
野々村卓也 (島根)
清松 督雄 (大分)
関 美津子 (園長会)
飯庭久美子 (島根)
船木 咲子 (秋田)
伊藤 友美 (愛知)

事務局

- 事務局長 角屋 純子
書記 横田万寿子
会計 矢敷 憲子